

令和7年度 佐世保市保幼小連携アンケート調査に関する報告書

門田 理世(西南学院大学大学院)

諫山 裕美子(西南学院大学大学院生、久留米大学) 沖本 悠生(西南学院大学大学院生、九州産業大学)

佐世保市幼児教育センター

本調査の主な結果概要

- 佐世保市の全施設(園・学校)で90.9%の回収率で、回答者は昨年より増加し、411人となった。【p1】
- 乳幼児教育・保育施設と小学校及び義務教育学校間では連携度に対する認識に違いがみられた。【p3】
- 連携の取組内容は「園児と児童との交流活動」と「近隣の園／小学校との入学前後の連絡会」の実施が最も多く、特に交流活動は全国調査と比較して佐世保市ではかなり連携が進んでいる。【p3】
- 各園や各学校の実態に合わせて作成する「接続カリキュラム」は6割が作成済・作成中の段階であり、昨年度とはほぼ同等の割合であった。【p4】
- 保幼小連携を本アンケートの回答者はほぼ全員が重要だととらえており、その理由をみると、保幼小連携の意義を認識し、前向きに取り組む姿勢が見出された。また、連携を推進する意識も高い回答者が多い。【p4】
- 回答者自身が考える保幼小連携担当者の役割として、具体的な内容が明らかとなった。その中で、**小**だけでなく**乳幼児**も主体となって取り組む意識や、地域で行っている保幼小連携から得られたことを、園内・校内でも共有することで、園・学校全体で取り組む必要性が示唆された。【p5】

※乳幼児教育・保育施設を**乳幼児**、小学校及び義務教育学校を**小**と表記する。

1. はじめに

本事業は、佐世保市と西南学院大学の包括的連携協定を基盤として継続しており、今年度で10年目を迎える。例年確認している項目に加え、本年度は連携担当者の役割に関する項目も設けた。本報告は、令和7年度保幼小連携施設長会(8月21日・9月4日開催)において、報告したものを加筆・修正した報告書である。なお、保幼小連携施設長会では、アンケートの結果報告に加え、ブロックごとの園・学校の施設長が協議する場を設け、対話を通じた保幼小連携を推進するための研修会を行った。

2. アンケート調査の概要

【調査対象】佐世保市内の全ての乳幼児教育・保育施設、小学校及び義務教育学校

【調査時期】令和7年7月

【アンケート対象者】

各園・各学校において複数の教職員に回答を依頼した。

【アンケート調査項目】表1参照

【アンケート方法】

Google フォームまたは紙面による回答を依頼した。

【アンケート回答数】

2年前に新たに Google アンケートを導入したところ、回収率が7割程まで下がったが、昨年度は89.0%と回収率が上がり、今年度は90.9%となり、昨年度より増加した(表2)。特に**小**は、昨年度と同様、97.9%で高い回収率であった。全施設の協力のおかげで、高い回収率を保っている。

表1 アンケート調査項目

I 回答者の属性 (現在の担当職、保幼小連携担当の有無、連携担当者の決め方等)
II 保幼小連携について (1) 連携の度合い (2) 連携の取組内容 (3) 園・学校独自の「接続カリキュラム」の作成・活用段階 (4) 連携の重要度 (5) 保幼小連携を推進する意識の度合い (6) 保幼小連携担当者の役割
III アンケート調査に関する意見

表2 アンケート施設別回答数

	送付 施設数	回答 施設数	施設回収率		個人回答数	
			R6年度	今年度	R6年度	今年度
乳幼児教育・保育施設	107	94	85.2%	87.6%	249	242
内 保育所	49	41	87.3%	83.7%	121	95
内 地域型保育事業 認可外保育施設	4	4	100.0%	100.0%	8	8
内 認定こども園 幼稚園	47	44	83.3%	93.6%	106	129
内 幼稚園	6	5	71.4%	83.3%	11	10
小学校及び義務教育学校	47	46	97.9%	97.9%	146	169
総数	154	140	89.0%	90.9%	395	411

※小学校には、私立1校を含む

3. 結果

I アンケート回答者の属性

(1) 接続期の担任の回答が2割程度

回答者のうち、**乳幼児**の5歳児担任は全体の21.5%、**小**の1年生担任は23.7%であり、どちらの施設の回答者も、接続期(年長・小1)の担任の割合は2~3割程度と、昨年度と同等であった(図1・2)。

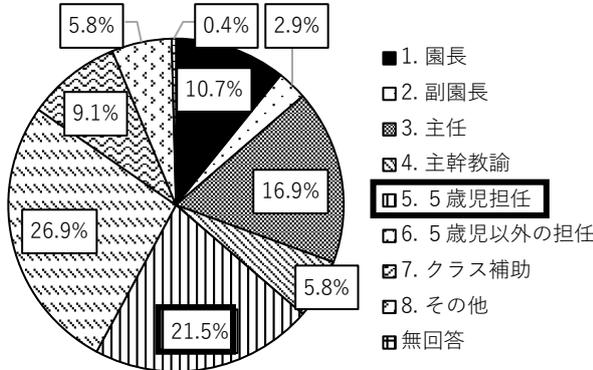


図1 今年度の担当職(乳幼児)

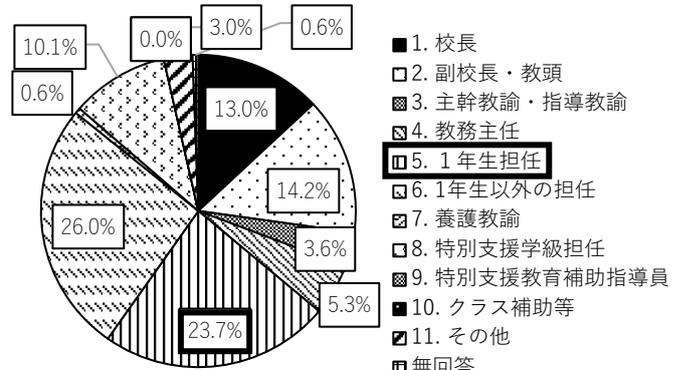


図2 今年度の担当職(小)

(2) 保幼小連携担当者の回答は3割程度

乳幼児の連携担当者は29.3%、それ以外の回答者が67.8%(昨年64.3%)、**小**の連携担当者は29.6%、それ以外の回答者が70.4%(昨年61.0%)であった。どちらの施設も、保幼小連携担当以外の回答者が全体の6~7割程度であり、アンケート全体の回答者の割合の中で保幼小連携担当者は3割弱であった。

保幼小連携担当者の今年度の担当職(役職)をみると、**乳幼児**は5歳児担任と主任が多く、**小**は1年生担任が最も多かった(表3)。

回答者に保幼小連携の担当経験回数を尋ねた(表4)。複数回担当経験がある回答者は双方とも4割を超えており、特に**乳幼児**は5回以上が16.9%と、担当者が固定化されていることが窺える。一方で、今年初めて担当する回答者が十数人ずついる。また

小は担当者になったことがない回答者が半数弱になっており、保幼小連携担当は誰しもが経験するものではないことがここからわかる。初めて担当した場合に、園内・校内の引継ぎはどのように工夫されているだろうか。

表3 保幼小連携担当者の今年度の担当職

	乳幼児		小		
園長	9	12.7%	校長	2	4.4%
副園長	3	4.2%	副校長・教頭	4	8.9%
主任	20	28.2%	主幹教諭・指導教諭	4	8.9%
主幹教諭	7	9.9%	教務主任	4	8.9%
5歳児担任	31	43.7%	1年生担任	29	64.4%
縦割りクラス	1	1.4%	1年生担任以外	1	2.2%
			特別支援学級担任	1	2.2%
計	71		計	45	

表4 保幼小連携担当の経験

	乳幼児		小	
1. 今年初めて	16	6.6%	13	7.7%
2. 2~4回目	85	35.1%	64	37.9%
3. 5回目以上	41	16.9%	8	4.7%
4. 担当になったことはない	75	31.0%	79	46.7%
5. 園で保幼小連携担当者は決まっていない	10	4.1%		
その他	11	4.5%	5	3.0%
無回答	4	1.7%	0	0.0%

(3) 保幼小連携担当者の決め方

保幼小連携担当者の決め方は、**乳幼児**も**小**も割合がほぼ同じであり、「保幼小連携担当になる役職・担任が決まっている」が約75%となった(表5)。園・学校内でその年度に担う役職・担任クラスや管理職の指名によって、保幼小連携の担当者は決まる。担当者になるにあたって、本人の意思はほぼ反映されていないといえる。

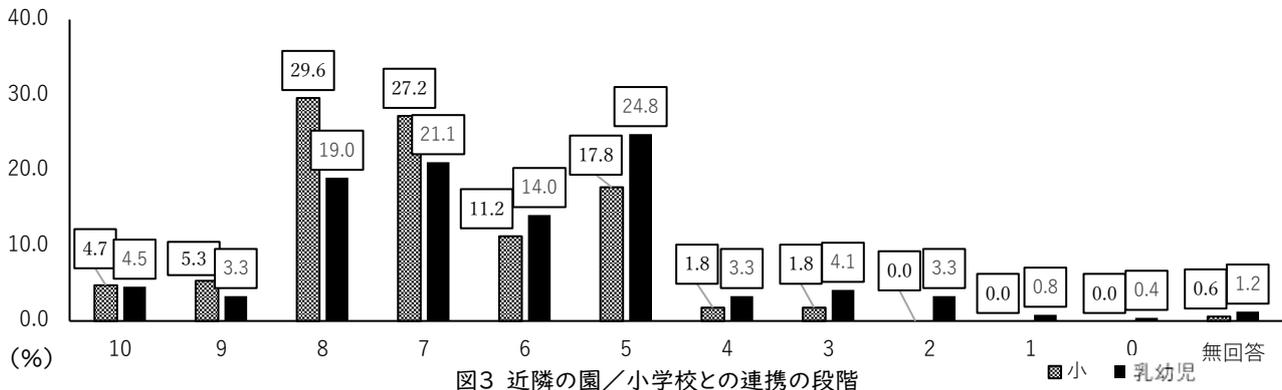
表5 保幼小連携担当者の決め方

	乳幼児		小	
①担当になる役職・担任が決まっている (例 年長担任/1年生担任がなるなど)	184	(76.0%)	125	(74.0%)
②管理職からの指名	25	(10.3%)	18	(10.7%)
③職員会議等での合議	2	(0.8%)	2	(1.2%)
④挙手制	0	(0.0%)	1	(0.6%)
⑤毎年決まった人がなっている	9	(3.7%)	0	(0.0%)
⑥決められた経緯は分からない	19	(7.9%)	22	(13.0%)
無回答	3	(1.2%)	1	(0.6%)
計	242		169	

※その他の回答は、該当する選択肢に含める

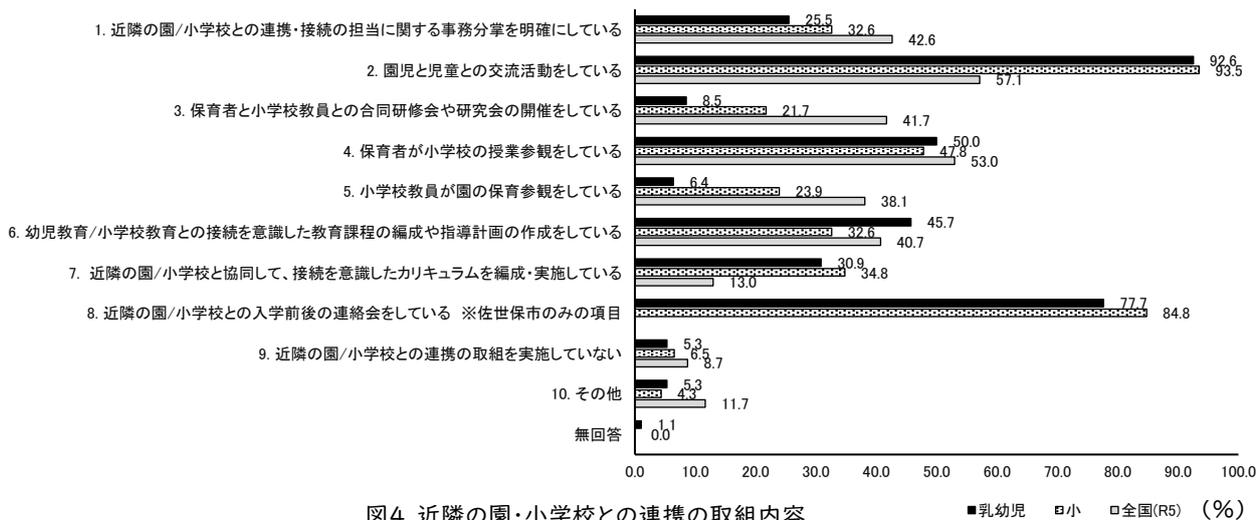
Ⅱ 保幼小連携について

(1) 連携の度合い：乳幼児教育・保育施設と小学校とて連携度に対する認識に差がある



現在の近隣の園・小学校との連携について、10を完全に連携できていると捉えた場合にどの程度連携できていると思うか、連携の度合いについて尋ねた(図3)。それぞれの連携度の中央値を見ると、**小**は連携度が「7」であり、**乳幼児**は連携度が「6」であり、**小**と**乳幼児**で連携に対する認識に差が見られた。

(2) 連携の取り組み内容：交流活動と連絡会の実施が多数



この項目は令和5年度幼児教育実態調査(文部科学省)*1とほぼ同様の質問項目を用いて、近隣の園・小学校との連携の取組内容を複数回答で尋ねた。園・学校ごとの取組状況を明らかにするために、施設当たり1名に分析対象を絞り、施設数当たりの割合を算出した(図4)*2。**乳幼児**と**小**ともに、「園児と児童との交流活動」と「近隣の園／小学校との入学前後の連絡会」の実施が最も多く、**乳幼児**と**小**の間で連携の取組内容に大きな相違は見られなかった(図4)。ここで、佐世保市の**乳幼児**の取組状況と全国の幼児教育実態調査の結果を比較すると、「2. 園児と児童との交流活動をしている」項目は、全国平均の57.1%より高い92.6%で、佐世保市では交流活動の取組が進んでいるといえる。一方で、合同研修会や保育参観・授業参観については全国平均の41.7%より低く、教職員の連携は子ども同士の交流ほど進んでいない。

*1 幼児教育実態調査は、文部科学省が幼稚園と幼保連携型認定こども園を対象に、2年に1回実施している全国調査である。令和5年度は全14,680園の調査結果が掲載されている(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/20240517-ope_dev03-1.pdf、最終閲覧日2026.3.5)。なお、子ども同士の交流活動は、令和元年度の調査では85.7%であったが、令和5年度には57.1%となっており、新型コロナウイルス感染症により交流活動が中止され、そのまま再開されていないのではないかと推測される。

*2 1施設で複数名の回答者がいる場合、優先順位を役職・担任の上位職とし、職位が同じ場合は、連携担当や年代などを参考にして1名/園・学校とした。

(3) 接続カリキュラムの作成・活用段階：6～7割が園・学校独自の「接続カリキュラム」を作成済・作成中「貴園・貴校における独自の接続カリキュラム作成・活用についてはどの段階ですか。一つ選んでください。」

表6 園・学校独自の「接続カリキュラム」の作成段階

作成の段階	乳幼児		小	
① 既に完成して活用	96	(39.7%)	83	(49.1%)
② 作成済、活用まだ	50	(20.7%)	25	(14.8%)
③ 現在、作成中	11	(4.5%)	4	(2.4%)
④ 共通理解済、作成まだ	8	(3.3%)	1	(0.6%)
⑤ 共通理解まだ	10	(4.1%)	9	(5.3%)
⑥ 作成予定なし	2	(0.8%)	2	(1.2%)
⑦ よくわからない	55	(22.7%)	43	(25.4%)
⑧ その他	7	(2.9%)	0	(0.0%)
無回答	3	(1.2%)	2	(1.2%)

ガイドラインを基に各園や各学校の実態に合わせて作成する「接続カリキュラム」の作成・活用段階を尋ねたところ、**小**は66.3%、**乳幼児**は64.9%で双方ともに6割が作成済または作成中の段階であり(表6)、昨年度と比較しても、その割合は**乳幼児**と**小**ともに同等であった。また、既

に完成して活用していると回答したのは、**小**は49.1%、**乳幼児**は39.7%で、**小**の方が接続カリキュラムの作成・活用が進んでいる。

しかし、どちらの施設も④園・校内で共通理解はしているがまだ取り組めていない、⑤共通理解に至っていないなど、作成に至っていない施設があることが明らかとなった。

また、⑦よくわからないの回答が2割程あり、これは昨年度と同等であった。このことは、園内・校内において接続カリキュラムが作成されているかどうかに対する共通理解が持たれていないことを示唆しており、まずは接続カリキュラムの内容を校内・園内で共有することが求められる。

(4) 保幼小連携を推進することの重要度：ほとんどの回答者が「保幼小連携は重要である」と意識

保幼小連携推進の重要度(表7)は「とても重要」「やや重要」を合わせて、**乳幼児**は97.5%、**小**は100%で、アンケート回答者にとって、保幼小連携の推進は重要という意識は両者でほぼ一致している。本アンケートに参加したことが、既に連携の重要度を理解した上でのことだとも考えられる。

表7 保幼小連携の重要度

	乳幼児		小	
1. とても重要	189	(78.1%)	137	(81.1%)
2. やや重要	47	(19.4%)	32	(18.9%)
3. あまり重要でない	3	(1.2%)	0	(0.0%)
無回答	3	(1.2%)	0	(0.0%)
計	242		169	

<保幼小連携が重要であると回答した理由>

乳幼児204名、**小**152名の回答を分析、意味単位ごとに回答を区切り、乳幼児265、小204の文節を分析した。その結果、90種類のオープンコードから30の焦点コード、10のカテゴリが生成された(表8)。

表8 保幼小連携の重要度を回答した理由

【カテゴリ】	【焦点コード】	乳幼児	小
1. 環境の変化に対応するための連携	環境の変化への対応	68	52
	子どもの思いを尊重した対応	27	14
	子どもが関わる環境や大人との連携	8	1
2. 子どものことを理解するための連携	子どもの情報の把握・共有	42	45
	子どもの育ちの理解		10
3. 連続性をもった子どもの保育・教育	育ちや学びの連続性	28	17
	共通の視点をもった保育・教育	6	3
4. 保幼小連携の意義	連携することの重要性	15	14
	幼児教育の重要性	1	3
	接続期の重要性	2	
5. 小学校教育での指導に活かすための連携	小学校の指導・生活	4	17
	小学校生活の充実	3	3
	小学校での体制構築	1	3
6. 互いに共通理解するための連携	互いの共通理解	16	2
	幼児教育を理解する		4
7. 幼児教育での指導に活かすための連携	園の指導・生活	18	
8. 実態から感じる連携の必要性	子どもの実態から	8	6
	職員の実態から	1	
	保護者の実態から	1	
	家庭・学童保育	2	
9. 交流活動による連携の重要性	大人の安心感	1	
	交流活動	4	3
	他園との交流	1	
10. 保幼小連携における課題	必要感が少ない	6	2
	時間がとれない	1	3
	互いの共通理解不足	2	
	連携できていない現状	2	
	対象の子どもの違い		1
	良くわからない		1

カテゴリのうち、【10. 保幼小連携の課題】を除く9のカテゴリは、保幼小連携が重要だと考える理由である。

最も回答数が多かった【1. 環境の変化に対応するための連携】の中の「環境の変化への対応」では、「スムーズに移行」、「スムーズに小学校生活を送る」、「段差・壁・小1ギャップの解消」が挙げられた。特に、「スムーズに」「円滑に」といった言葉は**乳幼児**で69、**小**で43出てくるほど、保幼小連携において重要なキーワードといえる。「子どもの思いを尊重した対応」では、「子どもが安心して就学」「子どもの不安や戸惑いの軽減」「子どもの意欲向上」と、環境の変化に伴う子どもの心情の揺れを、連携の取り組みで対応しようとする意識がみられた。

【2. 子どものことを理解するための連携】の「子どもの情報の把握・共有」の「情報共有・情報交換」は「乳幼児・小」ともに回答が多かった。また、「小学校生活の上で子どもの情報が重要」は「小」のみ14名回答しており、これに関連して、【5. 小学校教育での指導に活かすための連携】でも、幼児期の情報や援助を小学校での指導に活かす回答が多くみられた。

【3. 連続性をもった子どもの保育・教育】のカテゴリでは、「子どもの育ち・学びをつなぐ」「連続性のある保育・学び」など、これまでの子どもの育ちや学びをつなげていく必要性が述べられた。

これらの結果を見ていくと、佐世保市の先生方が保幼小連携を進めるにあたって多様な目的意識をもっていることがわかる。具体的な言葉は多岐にわたるものの共通して言えるのは、子どもが安心して就学し、幼児期の育ちがつながり、生き生きとした生活を送るために先生方が保幼小連携を大切だととらえ、前向きに取り組む姿勢が大多数の回答から見えてきたことである。長年にわたり、保幼小連携を市全体で取り組んできた結果、連携を重要だと考える意識が涵養されてきている。

(5) 回答者自身が保幼小連携を推進することの意識の度合い

： 昨年に比べて乳幼児はやや上昇、小はやや減少

回答者自身が保幼小連携を推進することの意識の度合いについて、「高い」「やや高い」を合わせて「乳幼児」が80.6%、「小」が79.3%であった(表9)。「乳幼児」は昨年の75.1%より若干上昇しており、昨年度90%を超えていた「小」の意識は約10%が下がっている。

表9 保幼小連携を推進することの意識の度合い

	乳幼児		小	
1. 高い	50	(20.7%)	32	(18.9%)
2. やや高い	145	(59.9%)	102	(60.4%)
3. やや低い	41	(16.9%)	28	(16.6%)
4. 低い	1	(0.4%)	7	(4.1%)
無回答	5	(2.1%)	0	(0.0%)
計	242		169	

<保幼小連携を推進することの意識の度合いを回答した理由>

保幼小連携の推進の度合いについて、その理由の記述を分析した。「乳幼児」161、「小」129の回答を1人1事例としてコードを付した結果、33の焦点コード、16の小カテゴリ、7の大カテゴリが生成された(表10)。

最も回答者が多かった小カテゴリは、【連携の重要性を認識】である。重要性を認識しているからこそ、連携推進への意識が高くなっている。ここで特に注目したいのが【連携の必要性の実感】である。これは、「連携により子どもが安心して入学した」「小学校の指導に活かしている」など、自身の体験をもって連携を推進する意識へとつながっていた。しかし、保幼小連携の「必要感が少ない」といった回答もあり、連携の実態を知らないで推進へとつながらない。そこで、保幼小連携の取組を連携担当者以外でも関心や関わりをもつ機会を増やし、連携の必要性の実感をもてるような取組を進めていく必要がある。

また、【自身の関わり方の実態】では、連携の意識が「やや高い」と「やや低い」回答者の両方から出てきているコードであることが興味深い。「関わりができていない」という意識の低さを示す回答がある一方で、「意識はあるものの、十分に関わっていない」といった自身の評価への厳しさもあった。しかし、連携に対する意識があるということは、自身がどのように関わるができるかが明確になれば、他人事にならず接続期の担任や保幼小連携担当者への支援も可能になってくると考える。そのことから、連携の重要性の認識を、園内・校内で高めていきたい。

表 10 保幼小連携を推進することの意識の度合いの回答理由

【大カテゴリ】	【小カテゴリ】	【焦点コード】	乳幼児					小					
			意識の度合いの理由	高い	やや高い	やや低い	低い	未記入	計	高い	やや高い	やや低い	低い
連携推進の重要性	連携の重要性を認識	保幼小連携の重要性を認識	4	10				14	2	6			8
		子どもの環境変化に対応するための連携	4	2				6	3	4			7
		育ちや学びの連続性のための連携	3	6				9					0
		園・小学校での教育への活用	2	2				4	1				1
		子どものことを理解するための連携						0	2	3			5
		互いの共通理解の重要性	2	1				3		1			1
	連携の必要性の実感	保幼小連携の意義を理解		1				1	2	1			3
		実態からの連携の必要性の実感	2	3				5	2	8			10
		連携による良さの実感	2	4				6		6			6
		連携から指導に活かしている実感						0	3	4			7
	研修を通じた必要性の認識		2				2		1			1	
	地域の特性からの必要性	2					2					0	
連携の取組実態	実際の取組の実態	連携の取組を行っている		10				10	2	7			9
		積極的な取組を行っている	8	2				10	3	3			6
		園・小学校教育で実際に取り組んでいる	3	3				6		2			2
		地域の実態に応じた連携	1					1		1			1
	連携のための研修参加		6				6		1			1	
連携推進への意識	さらなる連携への意識	連携することへの意識	2	8				10	3	6			9
		役割に応じた意識	3	1				4	4	3			7
		より連携を推進しようとする意識	1	1				2		3			3
		意図的な意識が必要	3					3		1			1
		自身の意識の向上		3				3					0
取組が不十分	自身の関わり方や実態	自身の取組が不十分		12	10	1	1	24		4	6		10
		研修や取組の不参加											1
取組を未実施	担当外のため	幼保小の取組への不理解		3	8			11		6			6
		連携への優先度の低さ	2	1				3		9	4	1	14
		接続期の担任ではない	2	3				5		7			7
		全く関わらない						0				2	2
連携の課題	連携における難しさ	連携を推進することの難しさ	3	3				6					0
		発展性がない連携の実態						1					0
	必要性への懐疑						1			1		1	
その他	その他	現状で十分						1					0
		年長の担任がいらない						1					0
計			42	87	30	1	1	161	27	74	25	3	129

(6) 保幼小連携担当者の役割：保幼小連携担当者は、地域での推進や接続期の理解に加え、園内・学内における保幼小連携を推進する役割も担う必要性

保幼小連携担当者の役割とは何かを明らかにするために、保幼小連携担当者と回答した人には「あなた自身が考える、保幼小連携担当者としてすべきこと」、担当者でない人には、「あなた自身が考える、保幼小連携担当者に望むこと」と質問をした。それぞれの回答を意味単位ごとに区切り、分析を行った(表11)。

保幼小連携担当者としての役割として【地域の保幼小の連携推進】【互いの教育や子どもの理解】【環境の変化に対応する取組】【園内・校内の保幼小連携推進】の大きく4つに分類された。

回答の4つの区分(乳幼児と小、自身の役割と担当者に望む役割)を通して最も多かったのは、[子どもの情報や関わり方の共有]である。子どものことを情報共有することで理解し、環境を整えたり、指導に活かしたりなどすることを含む回答が多かった。ここでは、「保護者の情報共有」の必要性も小の回答にみられた。

また、[保幼小連携の場の設定・計画・調整]は小の回答割合が高かった。日頃から、小の保幼小連携担当者が主体となって地域の連携を進めている様子が見える。乳幼児側が、もっと主体となる意識をもっていきたい。さらに、自身が担当者ではない区分で[園内・校内の保幼小連携に関する報告・引継ぎ]が挙がった。つまり、担当ではないが園内・校内で情報共有し、担当者任せにするべきではないという考えがここでは見られた。

本設問では、回答から多くの保幼小連携担当者の役割が示された。回答者自身が保幼小連携に関して重要だと思っていることやそれぞれの立場から、それぞれ役割を見出していることがうかがえた。保幼小連携担当者が上記のような意識を明確にもつことで、保幼小連携推進のきっかけになり得ると考える。

表 11 回答者自身が考える保幼小連携担当者の役割

【カテゴリ】	【焦点コード】	乳幼児		小	
		自身の役割	担当者に望む役割	自身の役割	担当者に望む役割
地域の保幼小の連携推進	保幼小連携への積極的な取組	30	7	9	6
	交流活動の推進	17	6	7	5
	共通認識をもちともに進める保幼小連携	9	2	4	5
	保幼小連携の場の設定・計画・調整	1	2	14	3
	地域のつながり・関係性の構築	2	4	3	3
	育ちの連続性を保障する連携	2	3		1
	意義のある保幼小連携の推進		2		2
互いの教育や子どもの理解	子どもの情報や関わり方の共有	32	15	31	23
	互いの教育の理解・共有	5	1	6	4
	互いの保育・教育参観	6	3	1	2
環境の変化に対応する取組	子どもの就学に関する支援・指導	32	9	12	5
	保護者の支援	3	2	3	
	接続カリキュラムの作成や協議	2		2	
園内・校内の保幼小連携推進	園内・校内の保幼小連携に関する報告・引継ぎ		11	3	4
	園内・校内での連携体制の構築	5	3		3
	園内・校内での意識の共有	4		1	
	回答者数	109	64	60	58
	分析した文節数	151	73	96	69

最後に、その他の意見としては、連携の重要性や進めていこうとする意識、またうまくいっていない事例や保幼小連携事業への提案等が寄せられた。これらは事務局と共有し、来年度以降の連携事業に活かしていきたい。

4. まとめと今後の課題

- 佐世保市の保幼小連携の取組実態が明らかになった。園児と児童との交流活動は全国調査と比較してもかなり高い水準で進んでいる。一方で、教職員の合同研修会や小学校教員の保育参観などは全国より少ないことから、交流活動のみでとどまってしまう現状があるともいえる。全国的には互いの保育・授業の参観や、教職員の研修会や交流会等を設けている自治体の報告がある。日頃の保育や授業、子どもの姿を見合うことは、互いの教育・保育への理解や対話の土台作りとなり得る。佐世保市では働き方改革の中でこれまで続けてきた保幼小連携としての公開保育・公開授業の実施を今年度は見送った。互いの教育・保育をつなげる最善の方法として、参観が全国的に進められている現状を踏まえ、佐世保市においてもよりよい方法を探っていく必要がある。
- 保幼小全体で、保幼小連携が重要であることは認識されている。また、推進しようとする意識も高い。保幼小連携は、環境の変化に子どもが対応できるようにするため、また連続性をもった保育・教育を進めるために重要であり、これまでの連携の実際から連携が必要であることを実感し、推進への意識をもっている教職員も多い。
- 保幼小連携担当者に焦点をあててみると、連携担当は園内・校内で役職・担任によって担当者に任命されている。担当者はその割り振られた役割の中で、連携が重要であると捉え積極的に取り組む姿勢で臨んでいることが明らかとなった。一方で、多くある業務の一つとして、担当者任せになってしまっていることを危惧する声も挙がった。子どもの育ちを長期的につなぐためには、保幼小連携を接続期の2年間のみに関わりとして捉えるだけでなく、発達の連続性を考慮し、乳幼児教育・保育施設と小学校がそれぞれ、園内・校内で保幼小連携について広く認知し、関心を高めながら関わっていくことが望まれる。

以上